

カリキュラム区分		現行カリ		シラバス区分		専攻科		
科目区分	科目コード	履修時期		開講専攻	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
助産学実践領域	S120	1年	通年	助産学専攻科	必修	助産学実習Ⅲ Clinical Practice in MidwiferyⅢ	45	1
担当教員								
今村 朋子	井上 明子							
関連するDPキーワード								
<input type="radio"/>	① 生命の尊厳を基盤とし、助産師としての倫理観と責任感を持ち、対象を尊重することができる。							
<input type="radio"/>	② 助産師としての役割や責務を自覚し、助産師であることに誇りを持つことができる。							
	③ 女性のリプロダクティブヘルス/ライツに関する健康課題について、広い視野から支援することができる。							
<input type="radio"/>	④ マタニティサイクルにある対象の個別性を尊重し、対象のもつ力を最大限にひきだすための基本的な助産診断及び助産技術を獲得できる							
<input type="radio"/>	⑤ 女性が安心して子どもを産み育てられる環境を整えるために、地域と密着した子育て支援活動が理解できる。							
	⑥ 周産期医療の高度化や多様化する価値観、時代のニーズに柔軟な対応ができる能力を身につけている。							
	⑦ 助産ケアの質の向上を図るために、研究的視点や科学的根拠を活用し、さらに探究する力を身につけている。							
授業目的								
助産所において自然出産を支える助産師の実践と、施設の特性をふまえた助産管理を学ぶ。 さらに地域母子保健活動について視野を広げ、地域における助産師の役割を発展的に考える能力を養う。								
到達目標（授業目標）								
【Aコース】								
1. 助産所を訪れる対象のニーズや助産師が行う妊婦健康診査、自然出産の意義を理解し、開業助産師の自立した実践について考察できる。								
2. 助産所における管理・運営の実践が理解できる。								
3. 妊娠から子育ての切れ目ない支援における、助産師の役割について考察できる。								
4. 対象への倫理的配慮を遵守し、助産学生として真摯に実習に取り組み、専門職としての態度を身につけることができる。								
【Bコース】								
1. 助産所を訪れる対象理解や開業助産師の実践について考察できる。								
2. 助産所における管理・運営の実践が理解できる。								
3. 妊娠から子育ての切れ目ない支援に向けて、地域における助産師の役割や多職種連携について考察できる。								
4. 対象への倫理的配慮を遵守し、助産学生として真摯に実習に取り組み、専門職としての態度を身につけることができる。								
授業計画（項目・内容と方法・担当者）								
授業概要	1. 実習期間 実習内容に応じて8～9月と11～1月の期間の中で不定期に実施する。 詳細は実習要綱を参照 ※事例等の状況により、2月以降の補習期間に実習を行う場合がある。							
	2. 実習時間 Aコース：受け持ち事例の健診、分娩状況に応じて実習を行う。 Bコース：学生が自分で、各見学施設と日時の交渉・調整を行う。							
	3. 実習場所 （一社）愛媛助産師会 まつやま助産院、その他、地域の子育て支援施設や各種イベント等開催場所 ※助産所の関連施設である嘱託医療機関、事例の自宅などの場で実習を行う場合がある。							
	4. 実習展開 詳細は実習要綱を参照。							
成績評価方法及び基準								
実習評価表（100点）の項目について、実習内容および到達度、実習態度を点数化し評価する。60点以上を合格とする。								
教科書	主に助産診断技術学Ⅰ・Ⅳ、統合ヘルスケアで用いた教科書を使用する。							
参考図書等	適宜紹介する。							
授業時間外の学習について（授業準備のための指示）								
実習内容についての事前学習、事後学習、事例記録などの時間外学習を必要とする。								

関連科目										
前科目		助産診断技術学Ⅰ～ Ⅲ	S110	助産診断・技術特論	S114	子育て支援論	S112	統合ヘルスケア	S117	助産管理
後科目										
実務家教員										
備考										